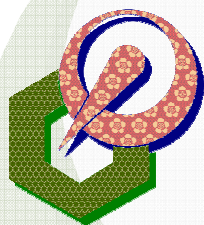


愛知県

平成25年度在宅医療従事者能力向上研修会

全国の先進地域の取り組み紹介 ～在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説～



平成 26 年 1月 26日 (日)

国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部

後 藤 友 子

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック とは

平成23年、24年度 在宅医療連携拠点事業による
成果(成果報告、進捗情報、提出物、問い合わせ、
アクションリサーチにより得られた情報など)

をもとに

各地域が今後在宅医療推進・医療介護連携を包含した
地域包括ケアシステム構築にむけ

取組むための

初級編取り組み方解説書

在宅医療連携拠点事業

在宅医療連携拠点事業(平成24年度まで)

【背景】

- 国民の60%以上が自宅での療養を望んでいる。
- 特に都市部において急速な高齢化が進展しており、死亡者数は、2040年にかけて今よりも約40万人増加。

平成23年度 10カ所

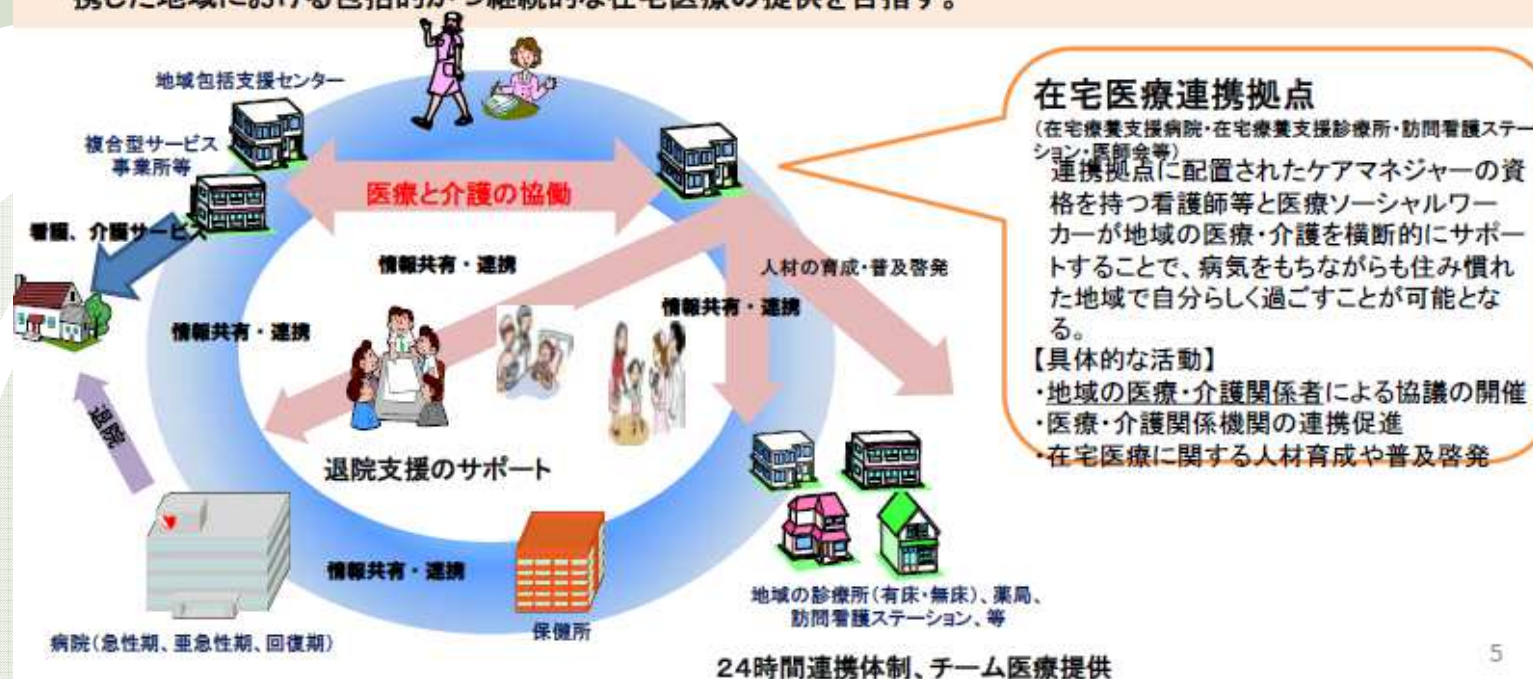
平成24年度 105カ所

【在宅医療・介護における課題】

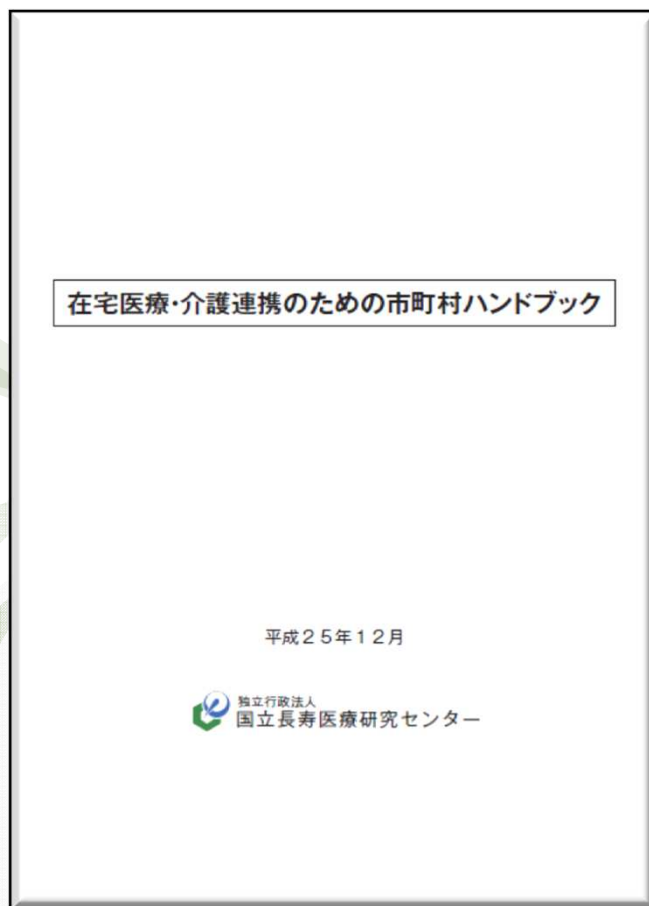
- 在宅医療を推進するには、関係する機関が連携し、医療と介護のサービスが包括的かつ継続的に提供されることが重要。しかし、これまで、医療側から働きかけての連携の取り組みが十分に行われてきたとはいえない。

【事業の概要】

- 在宅医療を提供する機関等を連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指す。



在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説



目 次	
1 在宅医療・介護連携の必要性について	1
(1) 地域包括ケアシステムの構築がますます重要に	1
(2) 在宅医療は地域包括ケアシステムの不可欠の要素	1
(3) まずは、自らの市町村で課題の確認を	2
2 在宅医療・介護連携の進め方	3
(1) はじめに ― それぞれの市町村の状況に応じた施策の展開を	3
(2) 市町村での事業の取組みのフローチャート	4
(3) 市町村における担当課の決定	6
(4) 郡市区医師会との協働	9
(5) 地域包括支援センターの位置づけ	10
3 具体的取組み	11
A. 会議の開催（会議への医療関係者の参加の仲介を含む）	12
B. 地域の医療・福祉資源の把握及び活用	17
C. 研修の実施	20
D. 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築	24
E. 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施	29
F. 効率的な情報共有のための取組み （地域連携バスの作成の取組み、 地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式や方法の統一など）	31
G. 地域住民への普及・啓発	33
H. 年間事業計画	35
4 今後に向けて	39
(1) 市町村事業のさらなる向上のために	39
(2) 制度改革の動向	41
資料 1) 各市町村の取組みに関する図表等の出典一覧	42
資料 2) 地域包括ケアシステム構築への取組みにおいて参考にされたい情報紹介	45

全国の市町村自治体・都道府県自治体・保健所
郡市区医師会・都道府県医師会など 3500冊を配布

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説



国立長寿医療研究センター
在宅連携医療部
の
ホームページ
『HAND BOOK』ページ
から
ダウンロードが可能です

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

1 在宅医療・介護連携の 必要性について

本日はこちらの
2項目を
説明

- 2 在宅医療・介護連携の進め方
- 3 具体的取組み
- 4 今後に向けて

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

2 在宅医療・介護連携の進め方

地域の実情に応じた展開

ネットワーク・文化・取組み・価値観・資源・人々・
経済状況

研修について

地域ですでに取組まれている活動を把握し
目的に応じてアレンジや新たな開催を計画的に行う
系統的に、目的をもって、目標を定め、
必ず結果を確認する仕組みの中で展開する
(結果情報を情報発信することも重要)

取り組みフローチャート

①担当組織の決定



②関係機関への訪問、事業説明、協力依頼



③推進協議会の設置(在宅医療・介護連携推進協議会等)



④課題の抽出
及び
解決策の検討

●地域包括ケアシステムを構築する
組織図の作成

●医療・介護資源の把握及び可視化

●地域住民のニーズ調査



⑤年間事業計画の策定



⑥計画の実施



⑦進捗管理、評価、計画の修正



⑧次年度の予算確保



⑨都道府県、保健所や各機関との連携、情報共有

在宅支援提供者の
スキルアップ・
多職種連携促進の
研修
等

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

2 在宅医療・介護連携の進め方

地域を把握し

活動スケジュールを立て

市町村が責任主体となり、担当窓口設置

関係者への理解と協力を得られるようアウトリーチ

連携構築には
顔の見える関係が必要不可欠

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

在宅医療連携拠点事業

在宅医療推進事業の7つのタスク

- ① 地域の医療・福祉資源の把握及び活用
- ② 多職種連携会議の開催（課題抽出、及びカンファランスを通じた顔の見える関係）
- ③ 研修の実施
- ④ 24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築
- ⑤ 患者・家族や地域包括支援センター、ケアマネジャーに対する支援や相談窓口
- ⑥ 効率的な情報共有のための取り組み
- ⑦ 地域住民への普及啓発

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

会議の開催（会議への医療関係者の参加の仲介を含む）

坂井地区における在宅ケア体制づくり

介護保険者（行政）が中心となる在宅ケア体制の構築（医療・介護事業者、大学による）

- ① 介護保険者（行政）が坂井地区医師会のノウハウを活用し、医療も含めた在宅サービスをワンストップで調整
- ② 坂井地区のすべての医療・介護事業者が参画

◎『坂井地区在宅ケア将来モデル推進協議会』を立ち上げ事業を推進

協議会メンバー 坂井地区の医師会・歯科医師会・薬剤師会の役員、 ネットワークさかい（介護事業者団体）の役員、 東京大学、福井大学、 福井県、あわら市・坂井市、坂井地区広域連合	在宅ケア体制構築に関わる機関数 134機関 在宅医療対応診療所：26機関 病院：7機関 歯科診療所：17機関 調剤薬局：5機関 訪問看護ステーション：7機関 訪問介護事業所：17機関 居宅介護支援事業所：30機関 介護保険施設：19機関（特養：11 老健：5 介護療養型 医療施設：3） 消防・救急機関：6機関 坂井地区の在宅サービス利用者数 約3,500人
---	--

- (1) 在宅主治医をカバーする副主治医選定ルールと病院によるバックアップ体制を組み合わせた在宅医療システムの構築
○医師会所属のコーディネーターが副主治医を選定 ○病診連携
- (2) 「顔の見える多職種連携会議」を設置し、地域包括支援センター単位での医療・介護連携を強化
○顔の見える多職種連携カンファレンス開催 ○検討部会
- (3) 市民が自発的に在宅ケアを学ぶための普及啓発
○在宅ケア出前講座 ○住民啓発ツール開発 ○市民集会開催
- (4) 医療・介護の多職種間で活用可能な坂井地区統一の患者記録様式の利用
○坂井地区情報連携シート ○ITを活用した患者情報共有ツール

地元医師会先導により
2市の自治体や県、
各専門職能団体、
介護保険者、
教育機関などが
地域の将来ビジョンに
向け
取組みを開始するた
めの
顔の見える場を設置

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

地域の医療・福祉資源の把握及び活用

宗像地区医療機関診療機能情報									
医療機関名	地区	紹介していた いた患者の 術後フォロー	臨床研修生 外来フォロー		抗がん剤治療		産業管理 (疼痛コン ロールを含む)	丸山 ワグテン	G-CFS 製剤
			早期	進行	経口	注射			
あ	[Redacted]	要相談			要相談	要相談	要相談	要相談	要相談
		○	○	○	要相談	要相談	○	要相談	要相談
		○	○	○	要相談	要相談	○	要相談	要相談
		要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談		
		要相談							
		○	○	○	要相談	要相談	○	要相談	要相談
		要相談	要相談	要相談	○	要相談	要相談		要相談
		要相談	要相談	要相談					
		○	○	○	○	○	○		
		○	要相談	要相談					
か	[Redacted]	要相談	○	○	○	要相談	要相談	要相談	要相談
		要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	○	要相談	要相談
		○	要相談	要相談	要相談	要相談	○	要相談	要相談
		要相談	要相談	要相談			要相談	要相談	要相談
					要相談		○	要相談	要相談
		○	○	○	要相談	要相談	○	要相談	○
		○	○	○	○	○	○		
		要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	○	要相談	要相談
		○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○		
さ	[Redacted]	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談
		○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○		
		要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談
		○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○		

在宅医療への取組情報										
医療機関名	クリニック	院長名								
住所	〒B11-3434	窓口担当 (Dr代り対応の方)	TEL	FAX						
在宅医療の取り組み (○をつけてください)	主治医意見書の記載		★各自でアドレスを交換してください							
	訪問診療		○対応している ・ していない							
	新規の訪問診療		○定期的に訪問している ・ していない							
	かかりつけ患者の臨時往診		○受けてよい ・ 受けられない							
	在宅医療支援診療所の届出		○対応している ・ していない							
	在宅医療支援診療所の届出		○有 ・ 無							
医師との連携方法 優先順位 (1～5の番号を つけてください)	直接面談	往診同席	外来同席	電話連絡	FAX連絡	メール連絡	その他			
	3	1	2	4	6	7				
担当医会議への 参加 (○をつけてください)	先生の都合に合わせた時間で、先生の医療機関で開催の場合		・ 30分以内なら可能		・ 15分以内なら可能		・ 困難			
退院前カンファレンス への医師の参加 (○をつけてください)	訪問診療に合わせて、患者宅で開催の場合		・ 30分以内なら可能		・ 15分以内なら可能		・ 困難			
	先生の都合に合わせた時間で、入院先医療機関で開催の場合		・ 30分以内なら可能		・ 15分以内なら可能		・ 困難			
主治医にアポイントメントとる際に 比較的对応可能な時間帯	(○をつけてください)		内		火		水		金	
	(自由記載をお願いします)		8:30～9:00							
多職種の方々への要望 (連絡時の注意事項等)	ケアマネジャー連絡・訪問可能時間									
	連携ガイドに記載 (可) ・ 不可									

ケアマネタイムや、アポイントを取る方法、退院前カンファレンス参加など
記載されている

厚生労働省委託事業 平成24年度在宅医療連携拠点事業 地域ブロック活動発表会資料,宗像医師会,P24,P25.
http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/renkeikyoten/2013/201301_02_block/10090255.pdf

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

研修の実施

系統的な 研修プラン

若者も
楽しんで
在宅医療
在宅看取り
について
学べる工夫

斬新な 研修アイデア

多職種連携 実践研修 (IPE)

- Step1 「在宅医療について知ろう！」
 - 在宅医療とは？という基本的なレクチャー
- Step2 「在宅における自分たちが発揮すべき専門力とは？」
 - 在宅医療を行う上で必要な、職種毎の勉強会
 - レクチャー、情報交換、ワークショップ
- Step3 「多職種連携を実現しよう！」
 - 多職種が協働してケアを行う、実践的な研修
 - ワークショップ、模擬カンファレンスなど

Step3.
多職種連携を実現！

Step2. 専門力	医師	訪問看護	薬剤師	歯科医師	管理栄養士	リハビリ	ケアマネ	ヘルパー	福祉用具	訪問入浴	鍼灸	M S W	施設スタッフ
---------------	----	------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	----	-------	--------

Step1.在宅医療について知ろう！

在宅医療 虎の穴 ～多職種連携実践研修～ <STEP1>

在宅医療プロフェッショナル大作戦
平成24年10月21日開催

参加者コメント

- ★具体的であり、教育があり、よく考えてくださった企画だと思いました。
- ★初心者にはとても分かりやすかったです。
- ★これまで文字でしか分からなかった退院時カンファレンスがリアルに感じられて有意義でした。
- ★カンファレンスの中でポイントの説明が分かりやすかったです。
- ★今後も続けて欲しい。また、続けて出席していきたい。
- ★とても不安な要素があったのですが、カンファレンスを聞くことでとても参考になりました。
- ★患者様の生活状況、気持ちを捉えながらのカンファレンスを進めていく方法がとても学びとなりました。
- ★退院時に行うカンファレンスそのものだったのでずっと入り込みましたし、薬剤師さんが入るカンファが初めてだったので新鮮に移りました。
- ★それぞれの立場の質問や回答を聞きながら自分だったら・・・と考えられやすかったです。
- ★ミーティングや議事時など劇団式を取り入れた提示の仕方、「鉄人」になるサンプル提示、有名なテレビのパロディー化、全て素晴らしいです。

在宅医療 虎の穴 ～多職種連携実践研修～ <STEP2>

MSWと在宅医療を考える勉強会
「行列のできる在宅相談所」
平成24年5月19日開催

福祉用具専門員 専門力強化研修
「福祉用具相談 テクノエンジニア」
平成24年7月31日開催

訪問看護・薬剤師 専門力強化研修
「訪問看護 VS (アンド) 薬剤師」
平成24年6月25日開催

在宅医療 虎の穴 ～多職種連携実践研修～ <STEP3>

在宅医療プロフェッショナル大作戦
平成24年8月11日開催

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築



地域の実情に
応じ
地域の病院が
後方支援と

副主治医
を担う

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施

3 療養相談室(高島平地区)

- 区民支援: 相談開始
- 多職種情報収集:
地域内在宅医、訪問看護ST、介護サービスの受け入れ状況
- 退院支援(スクリーニングシート)・入院支援
- 施設情報: 機能リスト付きMAP作成
- 災害MAP: 区とハイリスク療養者MAP調整中
- 災害対策: 支援調整 衛星電話 発電機 吸引器
- HP公開(医療連携MAP・施設MAP公開)

療養相談室相談の実績 (平成24年9月～平成25年1月)

医師会病院より	22件	・退院調整依頼 ・訪問医の紹介依頼
在宅医より	10件	・ケアマネの相談 ・吸入器導入について ・在宅医から退院支援相談(2)
地域包括支援センターより	7件	・退院支援の協力依頼 ・精神疾患の方の支援
他の病院相談室より	4件	・独居のがん末期の支援相談 ・在宅医相談 ・訪問針灸院相談 ・気管切開、レスピ装着患者の在宅医相談
ケアマネジャーより	4件	・脊髄損傷患者のサポートについて ・褥瘡が急きょ悪化し、専門医調整
訪問看護STより	3件	・在宅医紹介依頼
施設より	1件	・グループホームでの看取りについて
その他	3件	・在宅看取りの相談 ・開業についての相談
計	54件	

住民からの相談対応とともに
ケアマネジャーからの相談、包括支援センター、様々な相談に対応する

厚生労働省委託事業 平成24年度在宅医療連携拠点事業 地域ブロック活動発表会資料,板橋区医師会,P31,P33.
http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/renkeikyoten/2013/201301_02_block/04031081.pdf

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

効率的な情報共有のための取組み

情報共有のためのシートの活用状況の評価を自治体と定期的に行う
自治体と情報ツールの普及啓発や改善点のフィードバックを求める活動を行った

タスク3 効率的な医療提供のための多職種連携

行政との連携

- 定期的なミーティング（毎月第1月曜日13:00～）
出席者：庄内保健所、鶴岡市長寿介護課地域包括支援センター
- 医療と介護の連携推進担当者会議への出席（研修会企画会議）
- 鶴岡市地域包括支援センター連絡会が行った「介護支援専門員業務実態に関するアンケート」に、昨年度作成した「在宅療養者支援のための連携シート」活用についての項目があり、結果をフィードバックする

利用状況	人数
いつも利用している	9名
ときどき利用している	55名
全く利用していない	68名
合計	132名

理由

- 近隣医師との連携はとれている
- ケアマネ個人の所有物ではないため、冊子があることさえ分らない



- その他共催した活動
…鶴岡市主催「福祉体育祭」で包括の利用方法を寸劇で演じ、展示やアナウンスで訪問診療や介護サービス、ほたるのPRを行った（参加者780名）

タスク3 効率的な医療提供のための多職種連携

ショートステイ空き情報提供

情報提供事業所数 : 23
閲覧事業所数 : 48（居宅介護支援事業所、病院地域医療連携室など）

短期入所空き情報

【表の説明】 ● 十分に利用ができる（3名以上） ▲ 多少の空きがある（1～2名） × 短期入所サービスの空きなし

サービス事業所名	施設番号	1/28 (月)	1/29 (火)	1/30 (水)	1/31 (木)	2/1 (金)	2/2 (土)	2/3 (日)	2/4 (月)	2/5 (火)	2/6 (水)	2/7 (木)	2/8 (金)	2/9 (土)	2/10 (日)	2/11 (月)	2/12 (火)	2/13 (水)	2/14 (木)
旭華園（多床室） NEW	25-2881	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
旭華園（個室） NEW	25-2881	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
永寿荘 NEW	25-6111	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
おおよま	38-0250	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
しむん荘 NEW	76-3735	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
暹寿荘	43-2351	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ふじの花荘 NEW	64-5880	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
かみじ荘（多床室） NEW	62-2233	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
かみじ荘（ユニット） NEW	62-2233	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
桃寿荘 NEW	57-3222	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
かたり荘	53-2300	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ふなの荘	58-1535	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
なの花荘（個室） NEW	66-4831	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
なの花荘（二人室） NEW	66-4831	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
のぞみの荘 NEW	25-8255	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サテライト老健のぞみ NEW	25-8255	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サテライト老健ちわら NEW	25-8255	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
かけはし（療養介護） NEW	25-1131	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ショートステイかけはし（生活介護） NEW	25-1131	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

アクセス数 : 1,097件
(H24.4月～H25.1月18日現在)

在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

地域住民への普及・啓発

4. 市民啓発

○ 市政テレビ広報番組「興味しんしん家族」

- ・タイトル「在宅医療を知っていますか？」

- ・放送日

平成24年12月19日(水)

午後7時53分～8時

- ・内 容

在宅医、家族からのコメント

訪問診療の様子



○ ポスター、リーフレット等の作成

地元ならではの
情報発信源を
活用する

お年寄りや主婦層、
子どもへの
反響が大きい

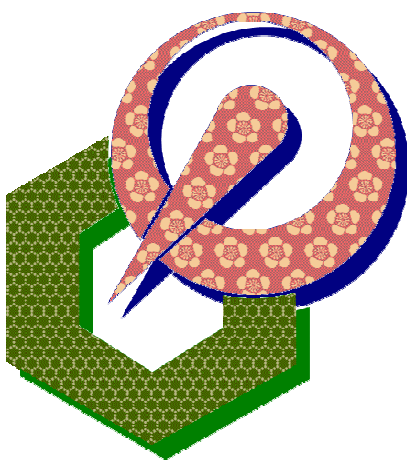
在宅医療・介護連携のための 市町村ハンドブック 解説

本日、ご紹介させていた活動は ほんの一部です。

各地域でもさらに様々な取り組みが続いています。

皆様の地域だけの斬新な取り組みを地域で見つけ育んでください。

もっと詳しい先進地域の活動情報をご希望の方、
地域での取り組みについて関心を持たれた方は
お気軽に在宅連携医療部までお問い合わせください



ご清聴を頂きありがとうございました

TEL

0562-46-5270（直通）

0562- 46-2311 内線

6215

MAIL

z_renkei@ncgg.go.jp

HP

<http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/index.html>